

## 放射線関連量の課題に関する検討委員会（臨時委員会）第4回委員会 議事録

日時：2025年4月2日(水) 13:30～15:00

場所：オンライン

参加者：委員長 小田啓二（電子科学研究所）  
副委員長 佐々木道也（電力中央研究所）  
幹事 山田崇裕（近畿大学）  
委員 黒澤忠弘（産業技術総合研究所）  
委員 高木俊治（三菱総合研究所）  
委員 吉澤道夫（放射線計測協会）  
委員 廣田誠子（広島大学）  
委員 佐々木耕一（日本原燃）  
委員 辻 智也（日本原子力研究開発機構）

資料：

資料1 臨時委員会第4回会合打ち合わせ資料

資料2 防護量・実用量の変遷のまとめの作成について（基本方針）（案）

資料3 ②新線量体系の課題整理③国内外の動向把握の進め方（案）

資料4 ロードマップの策定について（案）

議事概要：

### 1. 6月シンポジウムについて [報告]（小田委員長）

資料1に基づき報告があった。

・対面にて6月13日、14日に山上会館（東京大学本郷キャンパス）で開催される。本臨時委員会の報告は、6月14日午後で調整中。内容は、本日の議題の以下の2～4の経過報告としたい。

### 2. 防護量・実用量の変遷のまとめ [現状報告&相談]（小田委員長、吉澤委員）

資料2に基づき説明があった。

・防護量、実用量及びそれらを踏まえた我が国の放射線防護関係法令に用いられている量の変遷をコンパクトに、かつ、わかりやすく通読できる量と内容にまとめた資料を保健物理学会臨時委員会の報告書として作成したい。

・本文で概説を記載（執筆：吉澤委員）

・付録の執筆は委員で分担をお願いしたい（吉澤委員より各委員に相談、依頼）。

（小田委員長）新実用量に至るところまでの経緯に関する記事を JAEA 遠藤章氏依頼し、ESI news 掲載された。これを引用するのもよい。

(佐々木委員) 変遷についての書き方は確定的な言い方は出来ないものがあると想定されるが、委員内部で確認することで記事の信頼性を高めるとよい。報告書として専門研究会報告のように公開できれば良いと思う。

### 3. 新体系の課題整理&国内外の動向 [現状報告] (佐々木委員)

資料3に基づき説明があった。

- ・課題等の項目で担当者を振り分けて執筆中。4月中に取りまとめる。
- ・2章の結果に基づき、ロードマップ案の課題パーツとしてまとめる。

(高木委員) 将来の課題が定まってからロードマップを作った方がやりやすいが、時間の制約もあるので、ロードマップ策定にあたっては佐々木委員と相談しながら進めたい。

(小田委員長) シンポジウムの段階で経緯が説明できるところまでの取りまとめでよい。

(黒澤委員、山田幹事) ISO 及び IEC については、実務レベルの話で留まっており、現段階で新たな情報はない。

(吉澤委員) これに関しては、国際的な動きとアカデミアが中心であるが、実務レベルへの影響も重要である。しかし、現段階では実務レベルでは漠然としたところであるのはやむを得ない。実務レベルでは計測器メーカーや医療関係が影響を受けると想定されるが、現段階では、新たな動きに対してこういうことをやっておかなければ、という話が出てくれば紹介すればよい。

(小田委員長) 規制庁委託事業での検討成果を高橋委員にお願いするのがよい。

### 4. ロードマップ案の策定 [現状報告&相談] (小田委員長、高木委員)

事前に (3/19)、5年前の素案、目標の再設定、項目の大括り、開発時間軸などについて意見交換を行った。高木委員より、再度検討された案が資料4に基づき説明された。

・従前の臨時委員会 (2020年) で、素案まで作っていた。当時から外部環境が変わっている点を反映したい。ただ、担当者だけでは見切れない観点もあり、各委員からの視点も反映したものを作っていただきたい。

(小田委員長) 項目が細かいため大括りにするのはどうか？

(高木委員) 現時点ではこのままとし、委員との議論によって検討したい。

### 5. その他

(小田委員長) 委員会活動の全体スケジュールを見直した。

(佐々木副委員長) 公開シンポジウム (最終報告) は年度内にこだわらず、来年の6月でもよい。

次回委員会開催：5月の末で別途調整 (オンライン会議)

活動報告 (理事会報告) についてはシンポジウムの要旨を報告書とすることで調整する。

以上